

# 復興支援フォーラムニュース No. 120

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 ([tkonno67@gmail.com](mailto:tkonno67@gmail.com))

【第118回ふくしま復興支援フォーラム／2017年11月30日】

## 「新潟での広域避難者の現状と支援の課題」

松井克浩（新潟大学人文学部）

### 1 はじめに

#### 1-1 新潟県の近年の災害経験

新潟・福島豪雨（2004.7）、中越地震（2004.10）、中越沖地震（2007.7）

→住民の「エンパワーメント」、被災者ニーズの徹底的把握、支援ネットワークの形成と継承

#### 1-2 新潟県への避難の概要

新潟県全体：7,453人（2011.5）→2,803人（2017.4）（区域内45.3％／区域外54.7％）

柏崎市：2,091人（2011.5）→683人（2017.4）（区域内89.9％／区域外10.1％）

新潟市：802人（2011.5）→1,119人（2017.4）（区域内21.4％／区域外78.6％）

### 2 新潟県における支援

#### 2-1 原発避難への対応

- ・（新潟県）初期の対応：意向調査の実施／支援体制の構築：広域支援対策課の設置  
（長岡市）避難所運営の工夫：最大で1,000名近い避難者、班組織（「自治」の試み）  
（小千谷市）「民泊」の試み：1週間民家でゆっくりしてもらう
- ・被災者サポートセンター「あまやどり」（柏崎市）  
支援の柱：見守り支援、ケース検討会、居場所の提供  
避難生活の長期化、親の不安→子どもの「こころ」に負荷（不登校、家庭内暴力…）
- ・「共に育ち合い（愛）サロン むげん」（柏崎市）  
元保育士の女性が開設したサロン→避難者の居場所・交流の拠点、相談への対応  
中越沖地震の経験→一人ひとりの声、「身の丈」支援、相互支援

#### 2-2 新潟県の広域避難者支援の特徴

- ① 初期受け入れ：官民挙げての受け入れ、熱意と工夫
- ② 制度的支援：民間借上げ仮設住宅、見守り支援体制、移動支援
- ③ コンセプト：「ビッグブッダハンド」「小さなガバナンス」

### 3 広域避難者の6年間

#### 3-1 避難者の事例

- ・強制避難：Aさん（男性40代，富岡町→柏崎市）  
「不安の中で闘っていました」（2012. 4）  
「タンポポの種みたいなもの、風に吹かれて着いたところがここ」（2013. 7）  
「気持ちの奥底では富岡を捨てられない」（2015. 6）
- ・強制避難：Bさん・Cさん（男性70代・女性70代，富岡町→柏崎市）  
「避難で10キロやせました、娘が見まちがったくらい」（2012. 7）  
「夢が突然、カーテンを下ろされたように見えなくなった」（2013. 7）  
「うちらは避難民じゃない、難民」（2015. 6）
- ・強制避難：Kさん（女性40代，南相馬市小高区→新潟市）  
「戻そう、戻そうといっていることが、逆にバラバラにしている」（2013. 11）  
「いま帰れないけれども将来的にも帰らないということではない」（2015. 6）
- ・自主避難：Hさん（女性30代，福島市→新潟市）  
「何とか手をつないで、不安の波に呑まれないように」（2013. 2）  
「帰りたいといってる人を無理やり帰すのはやめてほしい」（2016. 6）
- ・自主避難：Iさん（女性40代，福島市→新潟市）  
「安全だという話よりも危ないという話を信じた方がいい」（2013. 2）  
「だんだんに忘れ去られて行くんだなって感じます」（2016. 6）
- ・自主避難：Jさん（女性30代，福島市→新潟市）  
「時間を返してもらいたい、悔しい」（2013. 2）  
「5年以上たっても地に足をつけて生活している実感はない」（2016. 6）

#### 3-2 避難者の苦悩をつくりだすもの

強制避難者：表面的な生活の安定→周囲の「まなざし」の厳しさ、迷い・不安の深まり

自主避難者：人間関係の軋轢・生活の厳しさ→避難継続の困難

\*避難者の「孤立無援」感←個別化・孤立化と世論の無関心

#### 3-3 被災者・避難者にとっての復興

- ・「生活の次元」／「人生の次元」（若松英輔）  
避難指示解除、住宅支援・賠償の終了→「思い」をつなぐ方法があるのでは？
- ・仮想の地域コミュニティ：ゆれや迷い、選択のし直しを肯定する〈仮の容器〉  
再生への時間：被災地の復興→時間を要する課題（世代を超えた取り組み）

### 4 避難と支援の現状と課題

#### 4-1 借上げ住宅提供終了への対応

借り換え支援、対応が難しかった事例

県の姿勢と背景：「新潟県の名前で避難者を訴えるわけにはいかない」

←中越・中越沖地震の経験：仮設住宅からの退去は大変なこと

#### 4-2 支援の現場から

- ・あまやどり（柏崎市）  
目が離せない家庭→避難により不安気質が増幅、原発事故と避難の不条理さ
- ・むげん（柏崎市）  
本当に支援を必要としている人たち→施設などに顔を出すことができない、見えない
- ・新潟県精神保健福祉協会  
「心配していたことが出てきた」：高齢者虐待、子どもの放置、自殺願望  
→支援を必要とする人（生活再建が困難な人）の存在が顕在化  
コミュニティの喪失：周囲の助けの喪失、避難者同士の協力関係の崩れ  
支援の困難／限界：（中越）専門職の配置、交流会の継続、保健師や市町村の協力  
今回：避難者支援者に依存したサロン運営、ゆっくり相談に乗れない  
→問題を起こす「困った人」（市町村にとって「曖昧な存在」）

#### 4-3 原発事故に関する検証委員会

- ・背景：米山知事の誕生（2016. 10）  
市民連合+5野党が擁立、公約：「原発再稼働の議論の前に福島原発事故の検証」  
柏崎刈羽原発の再稼働に「反対」（73%）→そのうち6割台が米山候補を支持（出口調査）  
国政選挙での野党系候補の優勢 \*巻の経験／柏崎刈羽原発の存在（？）
- ・3つの検証委員会  
技術委員会、健康・生活委員会、避難委員会（+総括検証委員会）  
米山知事：「（検証に）3, 4年かかる」

### 5 むすび

- ・避難者の苦悩：早期帰還政策→被災という事実の忘却  
→自分たちは大切にされていない、尊重されていないと感じている
- ・原発事故のどうしようもなさ（→県の検証作業）  
避難者・被災者の苦悩、深い傷、良心的な支援者の「無力感」  
→いま・ここの被災者をどうするかという問題
- ・中越の経験に立ち返る  
ダメージは人それぞれ違う、人生の再構築を支える、長い時間をかけて寄り添う  
→その人がもつ力を把握、それに見合う支援（初期段階から専門職が支える必要）  
\*今からでもできることはあるはず（予算配分の問題）
- ・自分自身の課題  
あるべきだった支援／理論的な探求／語らない（見えない）避難者



＜第117回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等＞

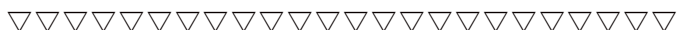
2017年11月7日、第117回ふくしま復興支援フォーラムを福島市AOZで開催しました。福島大学環境放射能研究所の所長・難波謙二教授から、「福島大学環境放射能研究所の研究活動と復興支援」をテーマに、環境放射能研究所の研究活動の紹介を中心に報告をしていただきました。福島市民など、28名が参加し、40分にわたり、活発な質疑応答が交わされました。会場で、ご意見等を文書提出していただきましたが、以下に紹介します。



- ★ 科学的な内容を分かりやすく説明して頂きました。（一部、難しい専門用語もありましたが・・・）。サカナの出荷制限の解除に関する「壁」もよくわかりました。これからもご研究の進展がありますよう期待しております。（N.O）
- ★ 環境放射能研究所でアーカイブ収集をするとは知らなかったもので、びっくりしました。アーカイブ収集には、震災の件と原発事故の件、両方整理収集が必要と思いますので、菊地芳朗先生のチームと環境放射能研究所が協力し合うことは、有効と思いました。（S.S）
- ★ 放射能汚染の実態が良く理解できました。貴重な研究成果だと思います。（S.A）
- ★ I E Rの多様な人材（外国人を含めた）による県内の被災地における放射線量の計測活動に感動いたしました。また、県内、公設試験研究機関（農業、水産）との連携も活発に行われていることも、将来に向けて期待が大きいものと思いました。（K.F）
- ★ 顔の見える環境放射能研究所を目指して、各地で研究成果を還元して行って下さい。アーカイブにはおおいに興味をもっています。（Y.I）
- ★ 食農学類との連携に期待します。アーカイブデータベースも。過去のポスターセッションのデータの公開・アーカイブ化も是非。（R.S）
- ★ 環境放射能の研究・データは、復興のまさに基礎データ、基礎分析となるもので、とても重要と考えています。その概要を理解できてよかったです。（Y.K）

◆◆◆◆【会場カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第117回ふくしま復興支援フォーラム(11月7日)の会場で、カンパ1,000円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。（今野）



【会計報告】（2017.11.29現在）

「収入」

「収入」	2017.10.5まで累計	86,456円	（第2期（2016.10.27～）繰越	7,106円）
	会場カンパ(2017.11.7)	1,000円		
	計	87,456円		
「支出」	2017.11.10（会場費121まで）	累計	63,580円	
「残金（現在高）」	2017.11.29		23,876円	



【予告】 第119回 ふくしま復興支援フォーラム

日時 2017年12月13日（水） 18時30分～20時30分  
 テーマ 「生業訴訟第一審判決について ～集団訴訟で何が明らかになりつつあるか～」  
 報告者 渡邊 純 氏（弁護士）  
 会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室3